

2024年4月1日から
2025年3月31日まで

2024年度
事業計画・収支予算書



公益財団法人 ベネッセこども基金

2024年度 事業計画書

(2024年4月1日～2025年3月31日)

2023年度は、中期計画の3年目の年。民間財団としての中間支援的な立ち位置であるベネッセこども基金の強みが活きるように、助成事業ではプログラムの改訂に着手しながら団体サポートを最適化し、新しい柱となる自主事業を育てる年。また、活動内容の発信による広報の強化は引き続き行う、と計画していた。

助成団体サポートや広報はよい形になってきており、2024年度も手法は踏襲する。自主事業では重い病気に加えて、D&I 教育でも連携する学校数および担い手となる支援者（教員）を増やす活動で実践が積み上がってきている。2024年度はその事例やノウハウがより多くの地域に広められるよう、成果報告会などを実施する。

また、助成プログラムの見直しについては理事や選考委員との議論を重ね、改訂の方向性が見えてきた。地域の子ども支援の実態調査や市場の動向やニーズを踏まえた上で、2025年度リリースに向けて2024年度は詳細を詰めていく。

I : 2024年度の重点テーマ

1. 【助成事業】助成プログラム改訂

- ・2025年度リリースに向けて市場ニーズ調査および企画・選考委員会での合意形成。
- ・助成団体をハブに子どもの権利を広める伴走支援

2. 【自主事業】経済自主の新コンテンツ

- ・ユースワークPJ：若者が主体となり社会モデルを推進する実践づくり
- ・児童養護施設の子どもの交流学习支援：トロント学習ツアー前後の研修に関与
- ・外国ルーツの子どもの支援ネットワーク：離島や山間部ともつながるNW

3. 【広報】10周年に向けた広報の体制強化と発信の仕組みづくり

- ・中間支援団体として、子どもを含む当事者の声を社会に届ける（アドボカシー）ことを強化する

Ⅱ：重点テーマの概要

1. 【助成事業】助成プログラム改訂

2025 年度に新助成プログラムのリリースをめざし、2024 年度は市場のニーズ調査を踏まえた企画詳細を立案。選考委員との合意形成を目指す。

また、団体サポートは助成団体のニーズを踏まえながらも、その団体が地域のハブとなり子どもの権利を広められるよう、伴走支援の手法を工夫する。

なお、「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動」助成（予算枠 2,000 万円）の採択は変更なし。

「重い病気を抱える子どもの学び支援活動」助成（予算枠 1,000 万円）の採択は変更なし。

「被災した子どもの学びや育ちの支援活動」助成（予算枠 2,000 万円）も変更なし。

※2019 年度より、緊急支援に特化した災害支援助成を継続実施。年度開始時に通年での募集要項を財団サイトに公開。災害発生時に助成の実行を判断し、要項に沿って公募する。

2. 【自主事業】経済自主の新コンテンツ

① ユースワーク PJ

（主な協働先：尼崎市、NPO 法人ブレインヒューマニティー）

若者が主体となり、社会モデルを推進する実践づくりを後押しする。トロント視察でもユースワーカーが自らの声で社会を変えた事例をみてきたが、日本でもこども家庭庁などがユースワークの活動に注目しはじめている。

尼崎市は先駆的にユースセンターなどでの交流学习や体験を促し、ユースワーカーの声を行政が受け止め、若者による街づくりに力を入れている。関係者から現状の課題をヒアリングし、調査することで、今後ユースワーカーにとってより活動がしやすい環境設定を検証する。

② 児童養護施設の子どもの交流学習支援

(主な協働先：認定 NPO ピースウインズジャパン)

何らかの事情により、1 番の理解者であるはずの両親に頼れない児童養護施設の子どもたちは、大学進学率も全国平均に比べて著しく低い。高等教育や留学など、学びの機会から最も遠くにいても言える。経済的なハンデで自分を小さく見積もり、挑戦する前に諦めてしまいがち。自分のことなのに、周囲が決定することが多いため、自己決定や意見表明の機会に乏しい。

そんな子どもたちにロールモデルとなる、トロントのインケア出身のユースたちとの交流機会を提供する。主催はピースウインズジャパンの「Study in America」というプログラム。ベネッセこども基金としては、国内における事前事後の研修プログラムに参画する。また、オンラインなどでロールモデルとの継続的な交流機会も提供する。

③ 外国ルーツの子どもの支援ネットワーク

(主な協働先：YSC グローバルスクール)

外国ルーツの子ども支援団体とは助成事業での採択が多いが、似た取り組みや共通の課題が多い。インバウンド増加により、散在地（離島や山間部）にも対象となる児童生徒が増え、担い手やノウハウ不足の課題も増加している。

一方で業界団体はまだ存在せず、最大手の団体である YSC（青少年自立援助センター）が国政に声をとどける存在になっている。そのような現状に危機感を持った YSC が事務局となり、業界窓口的な役割のネットワークを創る。

3. 【広報】10 周年に向けた広報の体制強化と発信の仕組みづくり

様々な課題を抱えていても学びや体験が保障され、将来の選択ができる社会をめざし、活動発信を増やしていく。特に 2025 年度の 10 周年に向けては、ベネッセこども基金らしい支援モデルを効果的に届けられるよう広報の体制も強化していく。

Ⅲ：その他のテーマ

重点テーマ以外の実行項目について、概要をまとめる。

【安心安全】

- ・下記コンテンツをより広く効率的に普及する。
「防犯」「スマホ」冊子
「防災」紙芝居

【病気や障がい】

- ・モデル校とのアバターロボットを活用した学びモデルの推進
(主な協業先：一般社団法人ニューメディア開発協会)
- ・全国の病弱児支援者のための医教連携相談ネットワークづくり
(主な協業先：認定 NPO 法人ポケットサポート)

【よりよい社会づくりにつながる学び支援】

広くすべての子どもたちを対象に「“ソーシャルリーダーシップ”を育む学び」の機会を提供。

- ・公教育における D&I 教育の推進
(主な協業先：一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ)
- ・マイノリティー性を抱える子どもによる当事者研究と社会モデルの推進
(主な協業先：リバナス)
- ・高校生英語ディベート大会・国際事業の共同実施
(協業先：全国高校生英語ディベート連盟 (HEnDA)・国際委員会)

IV. 会議体スケジュール (予定)

	日時	主な議案
第1回理事会	5月21日(火) 10:00~12:00	・2023年度事業報告・決算 ・評議員会の開催
第1回評議員会	6月13日(木) 10:00~10:30	・2023年度事業報告・決算 ・理事選任
第2回理事会	6月13日(木) 10:30~12:00	・「重い病気」助成募集要項 ・代表理事活動報告
第3回理事会	11月6日(水) 10:00~12:00	・「重い病気」助成団体承認 ・「経済」助成募集要項 ・代表理事活動報告
第4回理事会	3月11日(火) 10:00~12:00	・2024年度事業計画/予算 ・「経済」助成団体承認 ・代表理事活動報告

VI. 予算

2024年度 公益財団法人ベネッセこども基金					
収支予算計算書(正味財産増減計算書ベース)					
2024年4月1日から2025年3月31日まで					
(単位:千円)					
科 目	公益事業会計 子どもの学び 支援事業	法人会計	合計	2023年度 補正予算	差異
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
受取寄付金	169,807	20,000	189,807	169,696	20,111
受取寄付金	4,897	0	4,897	4,897	0
受取寄付金振替額	164,910	20,000	184,910	164,799	20,111
雑収益	2	0	2	1,583	▲1,581
受取利息	2	0	2	2	0
雑収益	0	0	0	1,581	▲1,581
経常収益計	169,809	20,000	189,809	171,279	18,530
(2) 経常費用					
事業費	169,809	0	169,809	151,279	18,530
原稿料	1,452	0	1,452	1,100	352
監修費	60	0	60	55	5
法定福利費	4,200	0	4,200	4,360	▲160
給料手当	24,000	0	24,000	25,720	▲1,720
旅費交通費	8,770	0	8,770	9,840	▲1,070
通信運搬費	1,520	0	1,520	1,480	40
減価償却費	20	0	20	24	▲4
消耗品費	190	0	190	250	▲60
印刷製本費	900	0	900	3,090	▲2,190
諸謝金	2,150	0	2,150	1,570	580
支払負担金	18,544	0	18,544	13,520	5,024
支払助成金	85,280	0	85,280	69,920	15,360
研修費	2,630	0	2,630	1,110	1,520
委託費	9,629	0	9,629	9,220	409
普及宣伝費	2,268	0	2,268	1,830	438
渉外費	581	0	581	690	▲109
制作費	3,090	0	3,090	3,420	▲330
報酬	2,970	0	2,970	2,510	460
会議費	1,455	0	1,455	1,410	45
新聞図書費	100	0	100	130	▲30
雑費	0	0	0	30	▲30
管理費	0	23,260	23,260	24,281	▲1,021
報酬	0	900	900	800	100
給料手当	0	6,000	6,000	6,180	▲180
福利厚生費	0	60	60	60	0
会議費	0	200	200	200	0
旅費交通費	0	40	40	40	0
通信運搬費	0	350	350	320	30
消耗品費	0	460	460	460	0
新聞図書費	0	110	110	110	0
印刷製本費	0	750	750	570	180
光熱水料費	0	300	300	300	0
賃借料	0	2,000	2,000	1,880	120
保険料	0	0	0	10	▲10
租税公課	0	10	10	10	0
支払負担金	0	500	500	1,690	▲1,190
雑費	0	300	300	300	0
法定福利費	0	940	940	1,020	▲80
普及宣伝費	0	200	200	100	100
渉外費	0	120	120	120	0
支払手数料	0	480	480	480	0
委託費	0	7,200	7,200	7,200	0
制作費	0	1,800	1,800	1,820	▲20
研修費	0	200	200	271	▲71
原稿料	0	340	340	340	0
経常費用計	169,809	23,260	193,069	175,560	17,509
当期経常増減額	0	▲3,260	▲3,260	▲4281	1,021
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	0	▲3,260	▲3,260	▲4281	1,021
当期一般正味財産増減額	0	▲3,260	▲3,260	▲4281	1,021
一般正味財産期首残高	6,661	37,896	44,557	48,838	▲4,281
一般正味財産期末残高	6,661	34,636	41,297	44,557	▲3,260
II 指定正味財産増減の部					
受取寄付金	130,000	20,000	150,000	200,200	▲50,200
受取寄付金	130,000	20,000	150,000	200,200	▲50,200
一般正味財産への振替額	▲164,910	▲20,000	▲184,910	▲164,799	▲20,111
一般正味財産への振替額	▲164,910	▲20,000	▲184,910	▲164,799	▲20,111
当期指定正味財産増減額	▲34,910	0	▲34,910	35,401	70,311
指定正味財産期首残高	380,392	0	380,392	344,991	35,401
指定正味財産期末残高	345,482	0	345,482	380,392	▲34,910
III 正味財産期末残高	352,143	34,636	386,779	424,949	▲38,170

VII. 資金調達及び設備投資の見込みについて

(事業年度 2024年4月1日から2025年3月31日)

1) 資金調達の見込みについて

当期中に資金調達の予定はなし。

2) 設備投資の見込みについて

当期中に重要な設備投資（除却又は売却を含む）の予定はなし。